

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：12401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2022～2023

課題番号：22K18548

研究課題名（和文）分散型環境における開放性と秘匿性が両立した会議空間の社会的工学的研究

研究課題名（英文）Sociological and engineering study of meeting spaces with openness and confidentiality in a decentralized environment

研究代表者

山崎 敬一（Yamazaki, Keiichi）

埼玉大学・人文社会科学部研究科・名誉教授

研究者番号：80191261

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は人々が働き活動する現場（ワークプレイス）の研究に関心をもつ社会学者や労働経済学者を中心とする人文社会科学の研究者と人々の遠隔での共同作業や会議場面に関心を持つ情報工学者や医療情報学の研究者の共同研究である。本研究では、(1) オフィスにおける分散的環境でのワークの社会学者や労働経済学者の研究、(2) 医療情報学の研究者と社会学者による高齢者のヘルスケアの研究、(3) 社会学者と工学者による遠隔での買い物支援の研究を中心に研究を行った。また医療やケアの問題を中心に秘匿性と開放性の問題を、シンガポールの研究者とともにシンポジウムを開いて検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナウイルスの流行の影響を受けて、会社でのリモートワークやオフィスなど分散的環境での共同作業や会議の重要性が社会的に高まった。また、医療や高齢者ケアの遠隔支援やメタバースによる支援の社会的意義も高まっている。本研究では、さまざまなオフィスでの分散的環境のマネジメントや、高齢者の服薬指導に対するメタバースを用いた支援の研究を行った。また、遠隔医療や遠隔ケアの開放性と秘匿性の問題を中心に、国際シンポジウムを行い、国家間での文化的違いや制度的違いに関する議論を行った。遠隔共同作業の学術的・社会的意義が高まる中、こうしたフィールドでの研究や国際的な比較の意義は大きいと思われる。

研究成果の概要（英文）：This is a collaborative research project between researchers in the humanities and social sciences, with a focus on sociologists and labor economists, engaged in workplace studies, and researchers in information engineering and medical informatics involved in remotely collaborated work. This research focused on (1) social scientific research on work in distributed environments in the workplace, (2) health care for the elderly by medical informatics researchers and sociologists, and (3) remote shopping assistance by sociologists and engineers. Issues of confidentiality and openness centered on medical and care were also examined in a symposium held with researchers in Singapore.

研究分野：社会学

キーワード：エスノメソドロロジー 会話分析 遠隔的共同作業 開放性と秘匿性 遠隔ケア 遠隔会議 分散型環境  
オンラインライブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ビデオを用いたコミュニケーションの研究は、メディアスペース研究と呼ばれ 1980 年代以降盛んにおこなわれてきた。その研究の主な目的は複数の場所を映像や音声でつなぐことで人々の自由な出会い(偶然的な出会い)を可能にし、それによって人々の創造性を高めようというものであった。その研究においては、会議への自由な参加をうながしたり、会議参加者同士が互いに自由に話すことができたりできる環境を作るといった会議の開放性の支援の問題が研究の一つの焦点になっていた。

そうした折に、新型コロナの流行とともに、遠隔会議や遠隔共同作業の実践的な重要性が高まってきた。人々は、大学の授業、テレワーク、オンライン診療、家族や友達との会合等の様々な場面で、ビデオ映像をもちいた遠隔会議システムを日常的に行うようになった。また遠隔買い物やオンラインでの応答の、遠隔的な共同作業にも親しむようになってきた。しかしこうした遠隔会議や遠隔共同作業は、コロナ禍における必要性から使われているだけであり、本来メディアスペース研究が目的としていた会議の開放性や人々の自由な出会いの問題に対して十分な検討がなされていない。また遠隔同士にいる人々がどのように遠隔から共同作業に参加できるかについて、十分な検討がされていない。そのため人々の空間的分断を越えるはずの遠隔会議システムが、会議参加者と会議に参加していない人の間の社会的分断を生み出す危険性も生じている。また遠隔から参加している者同士の間にも、共同作業への参加に隔たりが生まれ、それにより社会的分断がもたらされる可能性も存在している。

### 2. 研究の目的

本研究は人々が働き活動する現場(ワークプレイス)の研究に関心をもつ社会学者や労働経済学者を中心とする人文社会科学の研究者と人々の遠隔での共同作業や会議場面に関心を持つ情報工学者や遠隔での医療・ケアに関心を医療情報学の研究者の共同研究である。本研究の目的は、会議や共同作業の社会学的研究に基づき、社会的分断を生み出さない遠隔会議や遠隔医療・ケアシステムや遠隔的共同作業システムを構築することである。

本研究では同時に、コロナ禍において盛んになった、遠隔教育やオンラインの社会的影響について研究する。

### 3. 研究の方法

本研究では次のような方法で研究を行う。

- (1) 会社等の対面の会議場面や遠隔会議場面をエスノメソドロジー・会話分析(EMCA)の手法で分析する。さらに、会社等の分散型ワーク環境を調査するとともに、開放性や秘匿性のマネジメントを中心に、コロナ禍においてそうした環境がどう変化したのかをインタビューを通して分析する。
- (2) 遠隔医療や、遠隔ケアの場面のデータを集めエスノメソドロジー・会話分析の手法で研究を行うとともに、国際的な比較研究を行う。
- (3) 遠隔医療や遠隔ケアについて医療情報学の研究者と社会学者の協力により、新しいシステムを開発し、それがどう用いられるかについて社会学的に分析する。
- (4) コロナ禍における遠隔教育の研究を行う。
- (5) コロナ禍において盛んに行われたオンラインライブなどの遠隔共同作業場面の調査を行う。

### 4. 研究成果

- (1) オフィスでの会議場面、分散的環境におけるワークの研究：

様々なオフィスでの会議場面や分散的環境におけるワークについて、エスノメソドロジーやインタビューによって分析した。その成果は以下のものである。

梅崎修, 高村静, 坂本憲一「分散型ワークにおける管理職のマネジメント行動」生涯学習とキャリアデザイン 21(1) 2023年10月

高村静, 梅崎修, 坂本憲一「新しい働き方としての分散型ワークとその実践例 株式会社オカムラの事例」キャリアデザイン研究 18 2022年9月 査読有り

松永伸太郎, 梅崎修, 池田心豪, 藤本真, 西村純「上司や同僚との相互行為を通じた自発性の形成 - EMCAによるジョブクラフティングの分析」キャリアデザイン研究 (18) 103-112 2022年9月 査読有り

藤澤広美, 廣川佳子, 梅崎修「集団の創造性を生み出すコミュニケーションスキル と集団特性に関する探索的研究 - サイボウズ社を対象とした調査に基づいて - 」日本労務学会誌 23(1) 2022年6月

(2)遠隔医療や、遠隔ケアの研究と国際比較

群馬大学医学部と協力して、遠隔医療や遠隔ケアの研究を行った。  
またシンガポールの南洋理工大学と共同で、日常活動や遠隔医療・ケアの国際共同研究を行うことにし、それぞれの成果を南洋理工大学で2024年3月15日に開催したJapan-Singapore Joint EMCA Symposium for Medical Care and Mundane Activitiesで発表した。

(3)遠隔医療や遠隔ケアについての新システムの開発とその使い方についての社会学的研究：

高齢者の服薬に関するWEB3.0 technologyを利用した遠隔的相互扶助のシステムの研究(図1)を、IIAIAIにて、Kenji Nakamura, Keiichi Yamazaki, Yusuke Arano, Akiko Yamazaki, Hiroshi Koga, Naoya Ohta, Takuya Mitsuhashi, Hideru Obinata, Yoshiaki Ohyama Pilot test of the mutual assistance system using a wearable device for the elderly inWEB3.0 technology.として発表した。

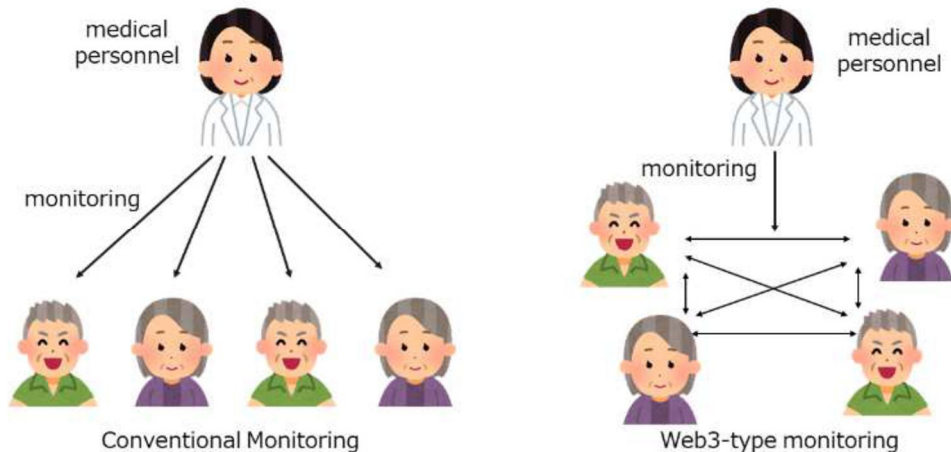


図1 高齢者の服薬に関するWEB3.0 technologyを利用した遠隔的相互扶助のシステム

2023年10月9日に開催された第96回日本社会学会のテーマセッションとして「遠隔コミュニケーションや仮想空間におけるテレプレゼンスの社会学」を組み、山崎敬一、中村賢治がその成果を発表し、システムの開放性と秘匿性の問題について議論した。

(4)遠隔教育の研究：

遠隔教育の研究としては次のような研究を行った。

Akiyoshi Yonezawa, Hiroshi Ota, Keiko Ikeda, Yukako Yonezawa, Transformation of International University Education Through Digitalisation During/After the COVID-19 Pandemic: Challenges in Online International Learning in Japanese Universities. The Impact of Covid-19 on the Institutional Fabric of Higher Education 173-198 2023年7月20日

ここでは、COVID-19パンデミックにより急遽国境を越えた学生の物理的な移動が停止された日本をケーススタディとして取り上げ、高等教育の国際化に関する変革と対策について議論した。異文化協働学習（ICL）と協働国際オンライン学習（COIL）に焦点を当て、それぞれ対面授業とオンライン授業を基盤とした異なるアプローチを通じて、二つの日本の大学における学生の学習経験の国際化を検討した。パンデミック中のデジタルトランスフォーメーションの急速な進展を通じて、これらの大学は国内外の学生間の対面およびバーチャルな協働学習を戦略的に組み合わせる新たなアプローチへと再設計した。またデジタルトランスフォーメーションの新たな現実の下での国内大学教育の機会と脅威について議論した。デジタル技術の進展により、国際学習の枠組みが拡大し、学生たちは地理的制約を超えて多様な学びを経験できるようになった。しかし、同時に新たな課題も浮上し、例えばデジタルデバイドやオンライン学習の質の確保といった問題が存在する。これらの変化は、学生がより広い視野を持ち、グローバル

な課題に対応するための重要な機会を提供する一方で、教育機関はその効果的な実施に向けて継続的な努力と革新が求められている。

#### (5) 遠隔共同作業場面の調査や開発

オンラインライブの研究：

オンラインライブの研究としては、次の発表を行った。

陳怡禎『観察者か、参加者か —非本国ファンによるオンラインライブ視聴に焦点を当てて』第96回 日本社会学会大会, 2023. 「本研究では、とりわけエンターテインメント産業におけるオンラインライブに焦点を当て、従来では特定の会場空間に集まってライブを楽しんでいた観客は、いかに遠隔から“(実空間での)無観客”ライブに参加しているのか、さらにどのようにファン・コミュニケーションを行なっているのかを考察した。中でも、本研究では、コロナ禍によって国際間の移動が制限されているなか、国境を越えて非本国の文化商品を消費する「ファン」は、愛好対象(Fan object)に対する消費のあり方をどのように変えるのか、さらにファンとしてのアイデンティティを維持するのかを考察した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 一ノ瀬俊也	4. 巻 59(3)
2. 論文標題 1970年前後の「志願兵制」の危機に対する陸上自衛隊の対応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 軍事史学	6. 最初と最後の頁 4-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一ノ瀬俊也	4. 巻 731
2. 論文標題 マスメディアのなかの三矢研究論争	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史学	6. 最初と最後の頁 28-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Kenji	4. 巻 8
2. 論文標題 Survey of Attitudes toward Sharing Health Care Information in Telemedicine	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Mental Health & Human Resilience International Journal	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.23880/mhrij-16000240	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋谷直矩	4. 巻 107(1)
2. 論文標題 エスノメソドロロジー・会話分析とは	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 電子情報通信学会誌	6. 最初と最後の頁 76-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅崎修, 高村静, 坂本憲一	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 分散型ワークにおける管理職のマネジメント行動	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 生涯学習とキャリアデザイン	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki Masaya, Ogawa Kosuke, Yamazaki Akiko, Yamazaki Keiichi, Miyazaki Yuji, Kawamura Tatsuyuki, Nakanishi Hideyuki	4. 巻 1
2. 論文標題 Enabling Shared Attention with Customers Strengthens a Sales Robot's Social Presence	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Conference on Human-Agent Interaction (HAI2022)	6. 最初と最後の頁 176-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3527188.3561918	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hasan Mahmudul, Hanawa Junichi, Goto Riku, Suzuki Ryota, Fukuda Hisato, Kuno Yoshinori, Kobayashi Yoshinori	4. 巻 506
2. 論文標題 LiDAR-based detection, tracking, and property estimation: A contemporary review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neurocomputing	6. 最初と最後の頁 393 ~ 405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neucom.2022.07.087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高村静・坂本憲一・梅崎修	4. 巻 18
2. 論文標題 新しい働き方としての分散型ワークとその実践例：株式会社オカムラの事例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キャリアデザイン研究	6. 最初と最後の頁 147-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永伸太郎・梅崎修・池田心豪・藤本真・西村純	4. 巻 18
2. 論文標題 上司や同僚との相互行為を通じた自発性の形成：EMCAによるジョブクラフティングの分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キャリアデザイン研究	6. 最初と最後の頁 147-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤澤広美・廣川佳子・梅崎修	4. 巻 1
2. 論文標題 集団の創造性を生み出すコミュニケーションスキルと集団特性に関する探索的研究 サイボウズ社を対象とした調査に基づいて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本労務学会誌23	6. 最初と最後の頁 76-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅崎修・武石恵美子・林絵美子	4. 巻 20
2. 論文標題 自律的なキャリア意識がキャリア・サクセスに与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イノベーションマネジメント	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 1件／うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Yoshinori Kuno
2. 発表標題 Kuno, Human Robot Interaction Research Based on Sociological Interaction Analysis
3. 学会等名 IWIS2023(International Workshop on Intelligent Systems) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 観察者か、参加者か - - 非本国ファンによるオンラインライブ視聴に焦点を当てて
3. 学会等名 日本社会学会 (第96回全国大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陳怡禎
2. 発表標題 為愛遠走異郷:「迷」の移動、加入、脱離
3. 学会等名 24文化研究年會 (國際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yuya Onishi, Kosuke Ogawa, Kazuaki Tanaka, Hideyuki Nakanishi
2. 発表標題 Embodied, Visible, and Courteous: Exploring Robotic Social Touch with Virtual Idols
3. 学会等名 Frontiers in Robotics and AI (國際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Gaze-Aware Social Interaction Techniques for Human-Robot Collaborative Shopping
2. 発表標題 Masaya Iwasaki, Kosuke Ogawa, Tatsuyuki Kawamura, Hideyuki Nakanishi
3. 学会等名 International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech2023) (國際学会)
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 K.J. Ritu, K. Ahammad, M. Mohibullah, M. Khatun, M.Z. Uddin, M.K. Uddin, Y. Kobayashi, M. Hasan
2. 発表標題 "SelfBOT: An Automated Wheel-Chair Control Using Facial Gestures Only,"
3. 学会等名 International Conference on Computer and Information Technology (ICCIIT) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 T. Sultana, M. Jahan, M.K. Uddin, Y. Kobayashi, M. Hasan
2. 発表標題 "Multimodal Emotion Recognition through Deep Fusion of Audio-Visual Data,"
3. 学会等名 International Conference on Computer and Information Technology (ICCIIT) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 S.S. Mahmud, M.A. Islam, K.J. Ritu, M. Hasan, Y. Kobayashi, M. Mohibullah
2. 発表標題 "Safety Helmet Detection of Workers in Construction Site using YOLOv8,"
3. 学会等名 International Conference on Computer and Information Technology (ICCIIT) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 瀧建人, 鈴木亮太, 小林貴訓
2. 発表標題 モニターテストにおける製品使用時のポジティブ・ネガティブ感情推定
3. 学会等名 画像センシングシンポジウム(SSII2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長坂有美, 鈴木亮太, 小林貴訓
2. 発表標題 ARとロボットを用いた美術鑑賞体験の時空間的増強
3. 学会等名 インタラクシオン2024
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 永井之晴, 鈴木亮太, 小林貴訓
2. 発表標題 会話を促進するロボットの身体的感情表現の評価
3. 学会等名 情報処理学会全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中村賢治, 山崎敬一, 荒野侑甫, 古賀弘志, 三橋拓也, 大山善昭
2. 発表標題 高齢者がテレプレゼンス上で相互扶助関係を構築できるか?ヘルスケア情報の共有を用いたパイロットテスト
3. 学会等名 日本社会学会(第96回全国大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎敬一, 小林貴訓, 鈴木亮太, 荒野侑甫, 神田捷来
2. 発表標題 遠隔共同買い物支援システムとテレプレゼンスの問題.
3. 学会等名 日本社会学会(第96回全国大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiko Yamazaki, Keiichi Yamazaki, Yoshinori Kobayashi, Ryota Suzuki & Hayato Kanda.
2. 発表標題 Remote Shopping System that Allows for Natural Body Alignment of Participants
3. 学会等名 Workshop "Technology & Social Interaction" (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Akiko Yamazaki, Keiichi Yamazaki
2. 発表標題 Children's Arguing in Nursery School
3. 学会等名 Japan-Singapore Joint EMCA Symposium for Mundane Activities and Medical Care (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 福田悠人, 鈴木亮太, 小林貴訓
2. 発表標題 対話ロボットのためのユーザの発話内容に基づく画像提示
3. 学会等名 電子情報通信学会総合大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中山雅方, 鈴木亮太, 大津耕陽, 福田悠人, 小林貴訓
2. 発表標題 対話性の付与に基づく過去のコンサート映像のライブ感増強
3. 学会等名 インタラクシオン2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 篠昂征, 鈴木亮太, 小林貴訓
2. 発表標題 対話的に工場案内する自律移動ロボット
3. 学会等名 電子情報通信学会総合大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 山崎 敬一、浜 日出夫、小宮 友根、田中 博子、川島 理恵、池田 佳子、山崎 晶子、池谷 のぞみ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 492
3. 書名 エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック	

1. 著者名 五十嵐 素子、平本 毅、森 一平、團 康晃、齊藤 和貴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 308
3. 書名 学びをみとる：エスノメソドロジー・会話分析による授業の分析	

1. 著者名 古川智樹 編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 関西大学出版	5. 総ページ数 276
3. 書名 ポスト・コロナ時代の留学生教育－関西大学留学生別科の挑戦と展望－	

1. 著者名 Yamazaki, Keiichi and Arano, Yusuke (Philippe Sormani & Dirk vom Lehn (Eds.))	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Anthem Press	5. 総ページ数 276
3. 書名 Breaching and Robot Experiments: Continuing Harold Garfinkel's Spirit of Experimentation. In Philippe Sormani & Dirk vom Lehn (Eds.) The Anthem Companion to Harold Garfinkel.	

1. 著者名 梅崎修, 南雲智映, 島西智輝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 476
3. 書名 日本の雇用システムをつくる1945-1995ーオーラルヒストリーによる接近	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 晶子 (Yamazaki Akiko)  (00325896)	東京工科大学・メディア学部・准教授  (32692)	
研究分担者	久野 義徳 (Kuno Yoshinoro)  (10252595)	埼玉大学・理工学研究科・名誉教授  (12401)	
研究分担者	秋谷 直矩 (Akiya Naonori)  (10589998)	山口大学・国際総合科学部・准教授  (15501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 貴訓 (Kobayashi Yoshinori)  (20466692)	埼玉大学・理工学研究科・教授  (12401)	
研究分担者	陳 怡禎 (Chen IChen)  (30845722)	日本大学・国際関係学部・助教  (32665)	
研究分担者	浅尾 高行 (Asao Takayuki)  (40212469)	群馬大学・数理データ科学教育研究センター・教授  (12301)	
研究分担者	中村 賢治 (Nakamura Kenji)  (40635736)	群馬大学・数理データ科学教育研究センター・講師  (12301)	
研究分担者	中西 英之 (Nakanishi Hideyuki)  (70335206)	近畿大学・情報学部・教授  (34419)	
研究分担者	福田 悠人 (Fukuda Hisato)  (70782291)	群馬大学・大学院理工学府・特任准教授  (12301)	
研究分担者	一ノ瀬 俊也 (Ichinose Toshiya)  (80311132)	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授  (12401)	
研究分担者	小林 亜子 (Kobayashi Ako)  (90225491)	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授  (12401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梅崎 修 (Umezaki Osamu)  (90366831)	法政大学・キャリアデザイン学部・教授  (32675)	
研究分担者	池田 佳子 (Ikeda Keiko)  (90447847)	関西大学・国際部・教授  (34416)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	荒野 侑甫 (Arano Yusuke)		埼玉大学学術研究員
研究協力者	陳 海茵 (Chen Haiyin)		埼玉大学学術研究員

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Japan-Singapore Joint EMCA Symposium for Mundane Activities and Medical Care	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 International Workshop for medical care and daily activities using technology	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関